

ほんのむし

2021年度 9月号 身延中図書館
発行日 2021. 8. 31

2学期スタート！

この夏、皆さんはどんな風に過ごしましたか？我慢の夏も2年目。

(●´・△・`)はあ~というため息もきこえてきそうですが、オリンピックや甲子園など、テレビから流れてくる世界から勇気をもらえた人も多かったのではないのでしょうか。

3年生のMさんの話です。「これまでの価値観が180度変わる本に出会えました。」と1冊の詩集を図書館に持ってきてくれました。1つ1つの詩を読んでいたら、自然と涙が出てきて、読み終えた時にはこれまでの自分にはなかった感情が浮かび、できないことや逃げていたことにも挑戦しようという気持ちも湧いてきたそうです。こんな出会いがあるって素敵ですね。

新型コロナウイルスは人類にとって大きな試練で、なかなか出口が見えませんが、みなさんのパワーと新しい発想とでぜひ乗り切ってください。2学期も元気に明るく頑張りましょう。

新着図書案内

夏休み中に新しい本が入りました。ぜひ、利用してくださいね！

ひみつのたべもの

松井 玲奈 / 著 (マガジンハウス)

ドラマや映画、舞台などで大活躍の松井玲奈さん。その活躍は女優だけにとどまらず、作家としても注目を浴びています。そんな松井さんがこのたび食べものにまつわるエッセイを発表しました。

「レストランで出会う特別な一皿」、「真夜中に衝動的に食べたくなるカップ麺」、「実家や地元・愛知県豊橋の懐かしい味」など、どのページを開いてもお腹が空いてきます。

「おいしいものをおいしいとそう素直に言えるだけでいい。」松井さんのそんな素直な思いがたっぷり詰まった楽しいエッセイです。



あのプロ野球選手の少年時代

花田 雪 / 編著 (宝島社)

秋山翔吾、前田健太をはじめとする6人のメジャーリーガー・プロ野球選手の少年時代の取材記録。誰もが憧れるスーパースターの少年時代は・・・？もちろん当時から「光るもの」はあったけれど、特別な存在でもなかった。でもそれぞれに共通しているのは「野球が好きなこと」「努力を惜しまなかったこと」「プロを意識していたこと」のようです。彼らがどのように努力し、どんな成長曲線を描いていったのか・・・。6選手のファンはもちろん、野球好きのあなた、野球部のみんな、野球に関わっているお父さん・お母さん・先生方にぜひ読んでほしい1冊です。

(河野の読書ノート) 2年生のKさんから借りた「白鳥とコウモリ」東野圭吾著 (幻冬舎)「今日も読めなかった・・・」と悔やみながら夏休み終盤を迎え、ようやくページを開いたら500ページ強をほぼ一晩で読了。「ページをめくる手が止まらない。」という感覚を久しぶりに味わいました。東京の弁護士殺人事件、すぐに自白した人物、それが30年前の愛知での殺人事件にもつながって・・・。SNS等の影響で真実がゆがまれやすい現代社会において、現実から目をそらさず受け止めようとする登場人物の強さに心打たれました。さすが、東野作品です。

9月のこよみから

9月11日 米・同時多発テロ



『最後だとわかっていたら』 ノーマ・コーネット・マレック 著

(サンクチュアリ出版)

アメリカの国内便4機がハイジャックされ、米国を代表する世界貿易センタービルと国防総省本庁舎に衝突。大爆発を引き起こして崩壊、約3000人の命が奪われました。あの日、テレビから流れてくる衝撃的な映像に一瞬映画のワンシーンではないかと錯覚し、しばらくその事実を飲み込めないうままにいました。世界中が震撼したあの事件から20年の時が流れました。

この『最後だとわかっていたら』はアメリカ人の女性が10歳の息子を亡くし、その悲しみを詩にしたものですが、同時多発テロの追悼集会で朗読をされ、大きな反響をよび、瞬間に世界中に拡散されました。

「今日という日の尊さ」「生きていることの素晴らしさ」「伝えることの大切さ」すべては当たり前ではないことを感じることでできる1冊です。身延中図書館にもありますので、ぜひ手にとってほしいです。



夏休み前、夏休み中に借りた本は9月1日(水)

までに必ず返してください！